

なでしこ川俣 特別養護老人ホームはなづか 第 22 回 運営推進会議

開催日時：平成 27 年 11 月 25 日（水）午後 2 時～

会 場：なでしこ川俣 2 階相談室

参加者：神野様（川俣町役場）、佐藤様（地域包括支援センター）、山根様（民生児童委員）、高橋様（消防団）、渡邊様（ご家族代表）、今野様（入居者代表）、伊東（園長）、熊坂（生活相談員）

1. 開会

2. 管理者あいさつ

寒暖差が激しい気候であるが、大きな事故もなく病状は安定して過ごせている。また、入院による空床も短期入所の方の受入れで満床で運営できている。地域に開かれた運営のために委員の皆様の意見を頂戴したい。

3. 参加者紹介

初めての参加者もいたため、参加者名簿に基づいて丁寧に紹介した。

4. 議事

1) 状況報告

①入居者状況および入退所状況について

生活相談員より別紙入居者状況表をもとに 27.9 月～27.10 月の状況について説明した。入退所の異動は入所者計 1 名、退所者 1 名、平均介護度 4.3、介護度別人数、平均年齢（87.1 歳）等の状況について説明した。

②職員状況について

施設内職員研修会実施報告（9 月：嚙下の専門的理解、10 月：スタンダードプリコーション）を行った。

③事故報告について

別紙『事故報告について』をもとに 9～10 月の状況を説明した。事件事例計 1 件、ヒヤリハット計 32 件の具体的な状況を報告した。

④行事などの実施状況について

別紙『行事内容報告書』『行事の写真』をもとに、コスキンパレード参加・春日神社祭礼・紅葉狩り・新米をいただく会など季節を感じて頂く目的の行事について報告した。

2) 意見交換会

神野様：ヒヤリハット件数が極端に少ない月がある。理由は何か？

熊坂：ヒヤリハット件数は利用者が固定されているため大きな差が発生

しづらい。極端な現象は、職員が報告するシステムであるため報告意識が関わってくる。指摘時期は職員の欠員補充が十分でないまま運営していた時期である。推測になるが、心身共に負荷がかかっていた中で報告意識が低下していた可能性がある。

3) その他

消防団代表高橋様へ相談する。

質) 火災発生時に、2階の利用者の非常階段介助にマンパワーが必要となる。消防団の方には非常階段側から2階避難を支援して頂くことは可能か？

答) 立地から消防署員の方が早い。消防団員も近所に住んでいない。近所は高齢者世帯が多い。以上から、『近所に大声でSOSを発する』『消防署ホットラインの整備』等の方法が望ましい、という結論となった。

5. 次回の運営推進会議の日時について

平成28年1月27日(水) 14:00～